

埋文やまがた



2013年2月15日

第50号



平成24年度 発掘調査速報会

於：村山市総合文化複合施設 『しょうよう甌葉プラザ』
平成24年12月16日(日)

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3246 山形県上山市中山字壁屋敷5608 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ：http://www.yamagatamaibun.or.jp

メールアドレス：yac@yamagatamaibun.or.jp

平成24年度 文化財普及啓発事業

今年度当センターでは、文化財普及啓発事業の一環として、「発掘調査説明会」、「出前授業」、「外部展示」、「職場体験」、「センター見学・遺跡見学」、「体験学習」、「山形県埋蔵文化財センター参観デー やまがた埋文まつり2012」、「発掘調査速報会」を実施しました。(平成25年1月現在)

発掘調査説明会

	市町村	遺跡名	遺跡種別	開催日
1	山形市	山形城三の丸跡10次	城館跡	7月21日
2	村山市	田向2遺跡2次	集落跡	7月25日
3	米沢市	馳上・西谷地b遺跡	集落跡	8月11日
4	村山市	森の原遺跡3次	集落跡	9月11日
5	天童市	蔵増宮田遺跡	集落跡	9月22日
6	村山市	清水西遺跡	集落跡	10月21日
7	東根市	八反遺跡2次	集落跡	10月27日
8	村山市	蟬田遺跡	集落跡	11月11日
9	高畠町	押出遺跡5次	集落跡	12月2日

出前授業

地区	実施校	対象	期日
庄内	1 遊佐町立遊佐小学校	第6学年	4月25日
	2 遊佐町立蕨岡小学校	第5・6学年	5月2日
	3 酒田市立浜田小学校	第6学年	5月7日
	4 酒田市立宮野浦小学校	第6学年	5月11日
最上	5 最上町立富沢小学校	第6学年	4月24日
	6 大蔵村立大蔵小学校	第6学年	5月10日
	7 新庄市立北辰小学校	第6学年	5月15日
	8 鮭川村立鮭川小学校	第6学年	7月6日
村山	9 天童市立蔵増小学校	第6学年	4月17日
	10 河北町立北谷地小学校	第6学年	4月18日
	11 尾花沢市立高橋小学校	第4～6学年	4月19日
	12 東根市立東根中部小学校	第6学年	4月20日
	13 山形市立第一小学校	第6学年	4月26日
	14 東根市立大森小学校	第6学年	4月27日
	15 寒河江市立幸生小学校	第5・6学年	5月1日
	16 天童市立長岡小学校	第6学年	5月8日
	17 朝日町立大谷小学校	第6学年	5月17日
	18 寒河江市立西根小学校	第6学年	5月18日
	19 東根市立東郷小学校	第6学年	5月22日
	20 河北町立谷地中部小学校	第6学年	5月29日
	21 大石田町立大石田北小学校	第6学年	6月13日
置賜	22 高畠町立屋代小学校	第6学年	4月16日
	23 高畠町立糠野目小学校	第6学年	4月23日
	24 南陽市立宮内小学校	第6学年	5月9日

センター見学・遺跡見学・施設利用

	団体名	期日
1	山形県立山形聾学校	5月15日
2	上山市宮生公民館女性学級『ほたるの会』	6月11日
3	上山市教育委員会(初任者・10年経験者研修会)	6月14日
4	山形県地域史研究協議会	7月16日
5	山形県立米沢興譲館高等学校	8月9日
6	天童市立蔵増小学校	9月26日
7	山形市立第七小学校	10月11日
8	山形南ロータリークラブ	10月16日
9	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科	11月15日
10	山形市立第九中学校	11月20日
11	仙台市縄文の森広場	11月22日
12	山形県立米沢女子短期大学日本史学科	11月29日

外部展示

うきたむ風土記の丘考古資料館 「古代の祭祀ー鶴岡市行司免遺跡 ・山形市今塚遺跡・遊佐町上高田遺跡ー」 会期：6月1日～9月23日
文翔館 (3階ギャラリー4) 日本一「さくらんぼ」祭り 『縄文の女神(レプリカ)』展示 会期：6月23日～6月24日
山形空港 (2階多目的ルーム) 「西ノ前遺跡展 ー『縄文の女神』がうまれたムラー」 会期：12月28日～1月31日
山形県身体障がい者保養所 東紅苑 「古墳時代のくらしー今塚遺跡・服部遺跡 ・藤治屋敷遺跡・鎌倉上遺跡・他ー」 会期：1月15日～2月15日

職場体験

	団体名	期間
1	山形県立上山高等養護学校	10日間
2	上山市内中学校	3日間
3	うきたむ風土記の丘考古資料館	1日間
4	山形県立米沢女子短期大学	10日間
5	教育庁文化財保護推進課	1日間
6	山形県立村山特別支援学校	6日間

体験学習

	団体名	期日
1	舟形町立長沢小学校歴史体験学習	6月1日
2	舟形町立舟形小学校歴史体験学習	6月4日
3	舟形町立富長小学校歴史体験学習	6月5日
4	舟形町立堀内小学校歴史体験学習	6月5日
5	鶴岡市立大山小学校歴史体験学習	6月26日
6	山形市千歳コミュニティセンター 歴史体験学習	7月26日 8月3日
7	鶴岡市教育委員会～縄文体験～	7月31日
8	蔵王みはらしの丘ミュージアムパーク 『はらっぱ館』～縄文時代を体験しよう～	8月8日
9	朝日少年自然の家 「朝日どきどき広場①朝少丸ごと縄文村」	9月9日
10	東根第二中学校文化祭 文化体験講座	10月28日

センター主催研修・講座

	講座名	期日
1	第1回市町村文化財担当者研修会	5月11日
2	ふるさと考古学講座①「遺跡を掘ってみよう！」	6月3日
3	第2回市町村文化財担当者研修会	6月15日
4	夏休み子どもミュージアム	7月23日～8月22日
5	特別展示「遺跡から見た上山の歴史」	7月28日～8月26日
6	公開講座『上山の考古学』	7月29日
7	ふるさと考古学講座②「古代人のおしゃれ工房」	8月11・12日
8	ふるさと考古学講座③「バスで遺跡を見に行こう！」	10月13日

ふるさと考古学講座(3)
『日本海側北限の古墳文化を探る』

バスで遺跡を見に行こう!

平成24年10月13日(土)



今年のサブテーマは『日本海側北限の古墳文化を探る』。山形県は日本海側では前方後円墳の北限になります。そんな観点で村山地方の古墳、あるいは古墳時代の遺跡・史跡を巡ってみました。駆け足の小旅行となってしまいましたが、皆さん充実した一日を過ごされたようです。

埋文センター参観デー

平成24年 9月30日(日)



今年も人気のまが玉作り、大人も子供も夢中です。



昔風の衣装で記念撮影。
縄文服でも鎧でもお好みで!

埋文祭り 2012



国宝『縄文の女神(レプリカ)』も展示しました。



復元作業の体験コーナーでは、本物の土器に触れていただきました。

500名以上の来場者を迎えることができ、上の写真以外にも、各種の整理作業体験コーナーや特別収蔵室の公開と収蔵品の解説、スタンプラリーに石器作りの実演など、盛りだくさんの内容で埋文センターのお仕事を体感していただきました。

考古学クイズ ～山形の遺跡編～

これまで、山形県埋蔵文化財センターでは、県内にある遺跡について、数多くの調査を行ってきました。このコーナーで、少しでも県内の遺跡や文化財、考古学に興味を持っていただければ幸いです。

Q. 昨年国宝に指定された『縄文の女神』は、およそ何年前のものと考えられていますか?

- ①約1,500年前 ②約4,500年前 ③約15,000年前

前号(第49号)にヒントがあります。答えは次号(第51号)の「埋文やまがた」で!

遺跡(埋蔵文化財)とは「過去の人間活動の痕跡」で、一般的には地下に埋蔵されているもののことです。集落跡や古墳、貝塚、城館跡など様々な種類があります。

住居跡や柱を立てるための掘り込みの跡など、地面に残された痕跡のことを「遺構^{いこう}」、そこに残されていた土器・石器や土偶、金属製品や木製品などのものを、「遺物^{いぶつ}」と呼びます。全部含めたものが「遺跡^{いせき}」です。『縄文の女神』は、舟形町の西ノ前遺跡^{いせき}の遺構^{いこう}から発見された、遺物^{いぶつ}ということになります。

しずにし
清水西遺跡

— 県内でも古い段階の氷河時代の遺跡 —

村山市

清水西遺跡は、山形盆地北端の小丘に立地し、上層で縄文時代・平安時代、下層で旧石器時代の遺構・遺物がみつかりました。

特に旧石器時代のものは、小丘の突端の調査区東側の山頂部で発見されました。石器は、下層上位の肘折火山灰（約1万年前に降下）の下の厚さ約20cmの黄色土（火山灰層）から安定して出土しました。石器は、頁岩製が多く、他に鉄石英や黒曜石があります。

石器の種類では、狩りなどに使われた、切り出しナイフに似た台形様石器や、縦に長く鋭い刃部をもつ石刃、それを素材とし刃潰し加工を施したナイフ形石器が多数出土し、他に石器を割った際の大小の剥片・碎片、その残核（石核）も出土しました。なお表土から出土した木材加工用の局部磨製石斧も、形から同時代のものと考えられます。

一般に局部磨製石斧、台形様石器、ナイフ形石器の組み合わせは、後期旧石器時代の中でも前半期の特徴で、厚手で幅広のナイフ形石器の形態から前半期でもやや新しい時期（約3万年前頃）の可能性があります。この時期は、大陸から日本列島に人類が到達して間もない頃で、県内の歴史でも古い段階です。そのため、まだ遺跡数も非常に少ない時期にあたります。

今回の面的調査では、山頂部の直径約15～20m



山頂部の石器出土状況

の円形の範囲に500点以上の石器が、幾つかのまとまりをもって出土しました。旧石器時代は氷河期にあたり、気候が今より寒冷で、本遺跡の南・東の眼下には、当時湿地帯や湖水だった村山平野が広がり一望できたと思われます。

本遺跡は、ナイフ形石器など狩り用の石器が多いことから、当時眼下の湿地に集まったナウマンゾウなどの大型動物を追い、遊動生活だった旧石器人の狩りの際の拠点だったと考えられます。

今後、土壌分析や石器の接合などの検討を要しますが、今回の調査で隣県の同時期の資料との比較が可能となり、当該期の貴重な資料になるものと思われます。（植松暁彦）



ナイフ形石器の出土状況



局部磨製石斧(左)・台形様石器(右)

当遺跡は前回までの調査でも大きな成果が得られています。地下2.5 mの湿地に、特殊な構造をもつ住居群、通常の遺跡では残りにくい有機質遺物、彩漆土器や木胎漆器などを始めとする貴重な遺構・遺物の数々が発見されました。その重要性は、約1,100点の出土品が、国指定重要文化財となったことからもうかがえます。昨年行った第4次調査でも、住居4棟、窪地のほか、縄文土器、石器、木製品などが多数発見されました。

今回の調査では、住居跡は見つからず、調査区内には遺物の廃棄場所が広がっていました。また、



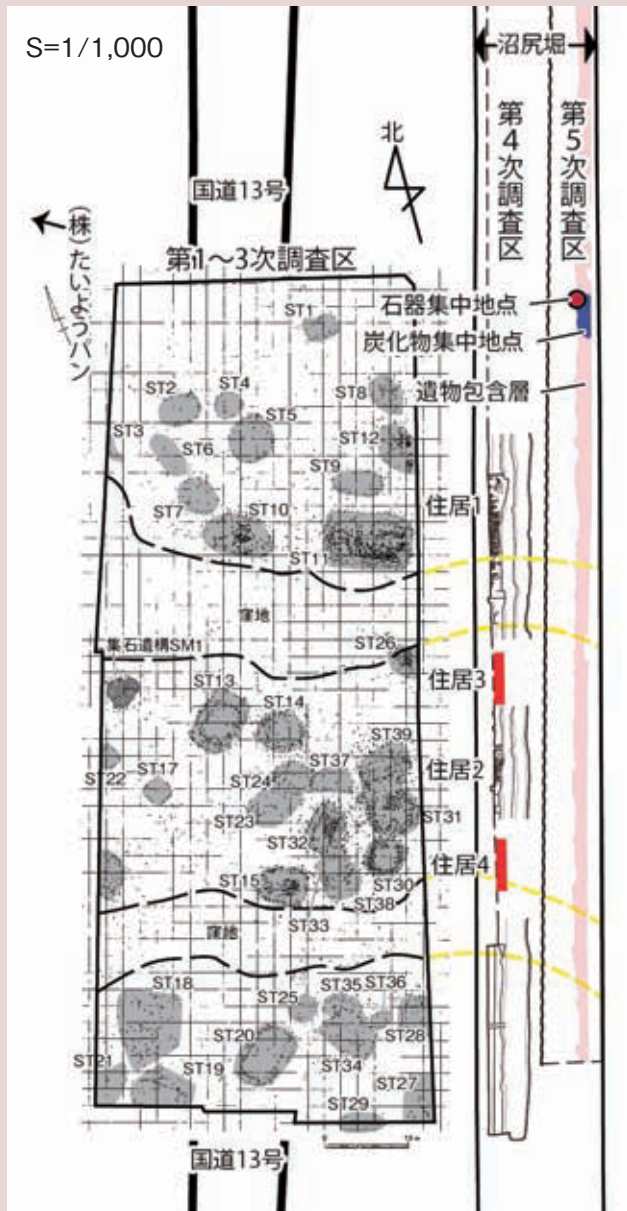
玦状耳飾りと小型磨製石斧

調査区の北側には炭化物集中地点、石器集中地点があります。集落の居住域から外れた場所であると考えられます。

出土遺物には縄文土器、石器、玦状^{けつじょう}耳飾り、彩漆土器、木胎漆器、ヘラ状木製品、縄紐などが見つかりました。ほかにも多数の有機物が出土しており、今後行う分析により、さらに多くの情報が引き出せると考えられます。

調査では湿地に適応した暮らしぶりを示す遺構、遺物が見つかりました。それら多種多様な遺物から察すると、大きく栄えた集落であったと考えられるでしょう。なぜ湿地へ進出して集落を営んだのでしょうか。当時の気候や湿地で得られる様々な資源などを、広く検討していく必要があります。

(水戸部秀樹)



1～3次の調査で39棟、4次で4棟の住居跡が見つかりましたが、今回は確認されませんでした。調査区には遺物の廃棄場所が広がっていました。



小型の鉢形彩漆土器です。口の周りに孔が一周します。赤漆が塗られています。

山形城は、江戸時代のはじめに最上義光^{もがみよしあき}によって整備された平城^{ひらじょう}です。これまでに複数回の発掘調査が行われており、今回の調査は、かつての山形城の東端にあたり、城内と、城外に広がる七日町などの城下町とを堀と土塁によって分けていた場所になります。明治時代に山形城は廃城となり、堀や土塁は埋め立てられてしまいましたが、今回の調査によって、この堀跡を発見することができました。これまでも堀跡の調査は、数回行われてきましたが、これほど大規模に調査できたのは、今回が初めてとなります。

発見された堀跡は、約30mの調査区を南北に縦断し、幅は、調査区内だけでも10m以上あり、さらに東側へ広がります。深さは地表面からおよそ5mもあり、堀には並行して土塁がつくられていたことを考えると、土塁の上から堀の底までは、相当の高低差があったことでしょう。堀は周辺の土砂の流れ込みなどによってゆっくりと埋まって行きましたが、掘り直しなどの修繕工事は行われなかったようです。底面から2mほど埋まったところには、焼けた木材とともに大量の遺物が出土しており、火事の際に焼けてしまったものを堀に捨てていたことがわかりました。

出土遺物から、この火事は幕末から明治ごろの



江戸時代の山形城の範囲。現在の霞城公園だけでなく駅前市街地一帯をも含む広大なものでした。

ものと推測できます。遺物はお茶碗や皿などの食器類を中心に出土しており、同じ形同じ文様のものが大量に出土しているのが本遺跡の特徴といえます。他にも料理に使うすり鉢や鍋、お酒をいれる徳利^{とっくり}、お茶をいれる土瓶^{どびん}や急須^{きゅうす}などが出土し、当時の食生活をうかがうことができます。食器以外でも、たばこを吸うキセルや灰皿、化粧道具、植木鉢、下駄^{げた}などの生活道具も多数出土しており、これらから当時の人々のいきいきとした生活がよみがえってきます。(天本昌希)



堀の断面。地層を見ることで、ゆっくり埋まった層から火事で一気に埋められた層など、どのように堀が埋められていったかがわかります。



堀の全景。堀の底や壁に大きな石が不規則に敷かれていたことがわかりました。

「埋文やまがた」50号の歩み



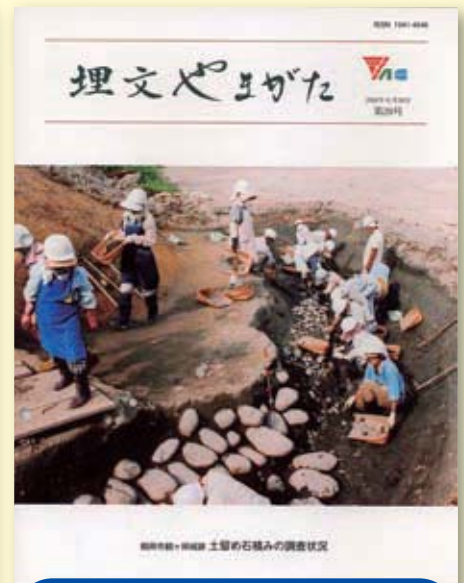
創刊号 1995年3月31日発行 表紙の写真 埋文センター前庭から

埋文センターは、この前年度の4月、創刊号発行の約2年前に財団法人として設立されました。建物は旧山形県立上山農業高等学校のものを引き継ぎました。



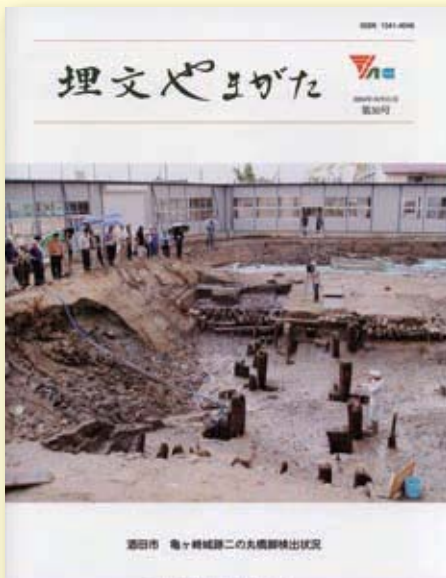
第10号 1998年3月31日発行 表紙の写真 鋳物で造った縄文の女神

身近に鑑賞できるコレクション(美術品)をというコンセプトで試作されました。山形鋳物の普及啓発の意味もあったようです。製造法が詳しく紹介されています。



第20号 2001年6月30日発行 表紙の写真 鶴ヶ岡城跡の発掘現場

今では当たり前になったインターネットですが、センターでもこの年からホームページを開設し、広く情報を発信し始めました。掲示板なども設置されていました。



第30号 2004年10月31日発行 表紙の写真 亀ヶ崎城跡調査説明会

この年は、年間で20もの遺跡が発掘調査され、誌面では5遺跡の概要が紹介されています。今も続く「秘宝館」のコーナーは、少し前の28号がスタートです。



第40号 2008年2月29日発行 表紙の写真 発掘調査報告会の様子

報告会は2日にわたって行われ、1,300名以上の来場者がありました。現在の発掘調査速報会と、埋文祭りを合わせたような内容となっていました。

山形県埋蔵文化財センターは、間もなく設立20周年を迎えようとしています。今年度はこのほかにも公益財団法人への移行やら、慣れ親しんだ弁天(旧上農高)からの引っ越しやら、はたまた前号でもお伝えした縄文の女神の国宝認定やらと、記憶に残る出来事が目白押しとなりました。

本誌『埋文やまがた』も、おかげさまで今号で50号となり、その記念に創刊号から最新号までのうち、キリ番のものを引っ張り出して紹介してみました。興味を持たれた方は当センターのホームページをご覧ください。ここで取り上げたものに限らず、全号全誌面をご覧ください。皆さんの記憶に残っているものがあれば幸いです。

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただけます。

電話 023(672)5301(代表)

編集後記

裏表紙の50号記念コーナーを編集していて、山形鋳物の実物大「縄文の女神」の存在をはじめで知りました。いくらぐらいで買えるのでしょうか? 「ちょっと欲しいかも……」と、うっかり思ってしまった筆者でした。